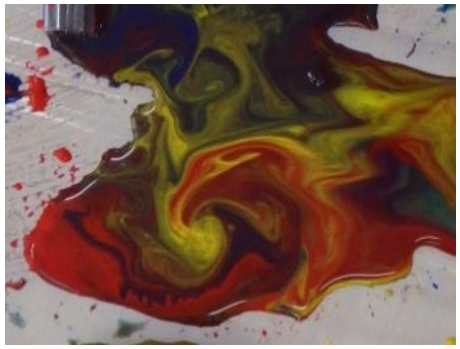
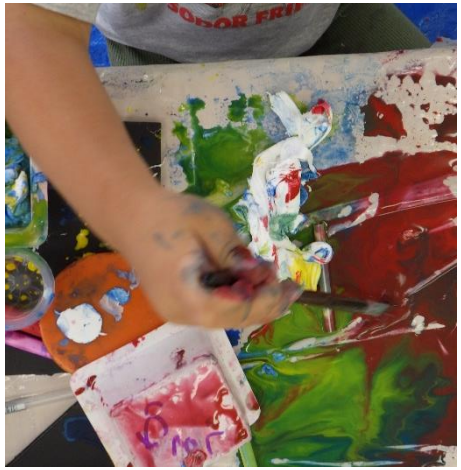
2024.10.16　2歳「粘土で遊ぶ」 軽量粘土、廃材、絵の具、他

手触りの良い軽量粘土を子ども達に渡し、小さな廃材を置いて
何かを作る指示はせずに、ただ見守りました。

子ども達は、少しづつ粘土に触り始めます。
触るのを嫌がっていた子も、廃材を使って粘土に関わり始めます。
ストローを粘土に刺したりしながら、遊び込んでいきます。
粘土に何かを埋めている人もいます。
詰める、ほじくる、跡をつける、ストローを転がす、穴を開ける、等
行為自体を楽しんでいきます。
絵の具を出すと、机に流し、混ざる様子を見て「きれい」とつぶやきます。
色が混ざり、名付けようのない微妙な色と出会っていきます。
絵の具に粘土を浸し、変化する感触を感じているようです。
それぞれが自分の世界に集中して遊び、
自分で「おわり」を決め、自然に日常に戻っていきました。

何かを作る、という正解がなく、大人は距離をとって見守ったことで
一人ひとりが自分の世界に浸り、遊びこんでいけたのでしょう。
これは何？こうしたらどうなる？未知のものと出会い、自分なりに考え、
開拓し、その過程や変化を楽しみ、探求していました。

大人も、子どもを止めない事で、その子の世界観やこだわりに気付き
次はどうするのかな、とワクワクしていました。

自分のやりたい事をやり、満たされていると、子ども達は寛容で平和です。

小さい人にも自分の世界があり、感じる心、見てる世界は１人ひとり違う。
あなたはどうしたい？これでいい？確認し、問いながら、それを尊重する。
やりたい事と出会える環境を作り、見守る。
そんな大人の在り方が、「自分はどうしたいのか」にフォーカスしながら、
自分の感性をしっかりと育てることに繋がるでしょう。